

現代文 森鷗外「舞姫」

国語科 萩原 万紀子

対象 3年生3クラス合同（「現代文」 必修2／4単位） 119名

教材 森鷗外「舞姫」（桐原書店「探究 現代文改訂版」）

教材について 定番教材「舞姫」は、現代の高校3年生にどのような学習意義を持っているのだろうか。高校生には難解な文体もさることながら、作品の時代背景を理解することが難しい。そこをフォローしていくのは殆ど古典の学習に近いものがあるが、グループ学習を導入するなどして、登場人物の心理や、作品の提示する問題に迫っていかせたい。友人同士の協力によって、生徒が近代文学作品としての価値を発見できるようにしたいと考える。

目標

- ①明治期の擬古文を読み味わうとともに内容を把握する。
- ②自ら問題意識をもって小説の読解を試みる。
- ③登場人物の心理の推移を追う。
- ④明治期の青年の生き方について考える。
- ⑤グループ学習により上記目標を深める。
- ⑥作品および作者の文学史的意義を理解する。

評価

観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
内容	作者および作品に関心をもって主体的に授業に取り組む。	ループ話し合い、またその発表によって、自分の考えを深め掘り下げる。	読解内容や自分の作品理解を文章表現でまとめる。	雅文体を極力正確に読解する。状況の展開や登場人物の心理を読解する。	明治時代のエリート使命感を理解する。文学史的な意義を理解する。
方法	夏休み課題	行動の観察 クラス（学年） 発表 聞き取り用紙	読解プリント 期末試験	行動の観察 読解プリント 期末試験	行動の観察 期末試験

本時について

(1)本時の目標

- ①学年全体の相互交流により、小説を読む学習を楽しむ。
- ②相互交流を通して学年全体の作品に対する理解を深め、鑑賞の幅を広げる。
- ③プレゼンテーション能力ならびに適切に聞き取って思考する力を養う。

(2)本時の展開予定

- ①本日の目的、趣旨について授業者の説明を聞く。

- ②クラス代表グループの発表、聞き取りを行う。
- ③聞いていた生徒はグループ内で疑問点等を話した後、質問する。
発表グループと質疑応答を行う。
- ④聞き取り用紙に感想、コメントを記入する。
②～④を繰り返す。
- ⑤自己評価用紙に評価と感想を記入する。
- ⑥聞き取り用紙・自己評価用紙を提出する。

(3)評価方法

- ・行動の観察
- ・聞き取り用紙
- ・自己評価・感想用紙（後日プリント配布）
- ・期末試験（後日）

(4)授業について

全体の読解に時間のかかる教材だが、今回はさらに4時間プラスして、グループワークとクラス発表、さらに学年全体の発表会を行った。小説の読みを深め合い、鑑賞の幅を広げる学習の楽しさを味わうことを企図したものである。学年発表会は、3年生にとっては1・2年次で行うレポート発表会で慣れた形式であるが、3年生現代文で活用して、協働作業の価値を再発見することを期待した。

最初はフロアからの質問が出にくかったが、次第に活発に手が挙がるようになり、時間超過の恐れが出たために途中で打ち切った質問もある。その点、深め合いを欠いた部分もあったが、授業後も考え続けてくれた生徒も多い。自己評価では「(教材に対する)関心」が非常に高かったが(A89、B18、C3、D0)、それ以上に今回特設の「学年発表会を通して、小説を読む学習を楽しむ。」項の評価が高かった(A94、B12、C1、D0)。出席した殆どの生徒が、相互交流による学びを楽しんでくれたことが現れている(唯一C評価生徒のコメントは「発表者がすごい。自分もできるようにになりたい」というもので、楽しむことはあまりできなくても学びにはなったようだ)。

研究協議

生徒の活発さ、取組み意識、読解および発表力の高さを評価していただけた。本作品は近代文学の「古典」であり、殆どの現代文教科書に掲載されており、ぜひとも扱いたい教材である。しかし長い時間をかけざるを得ないうえに、主人公が悪者になってしまいがちなのをどう捌くか、読解をいかにして深めるか、そもそも受験に気持ちが向きがちな生徒の関心をいかに引きつけるかなどの問題を抱えながら取り組んでいる現場の状況が次々報告された。そのため、参加者の問題意識も共有しやすく、活発な意見交換が行われた。まとめることはもとより不可能だが、グループ学習の有効性についても認識を深めていただけた点、授業者としてはありがたいことだった。